

# 原子力リスク研究センターシンポジウム2018

## 第3部パネルディスカッション資料

東京大学大学院 岡本 孝司

# 事業者の自主的安全性向上活動の進め方

## ・安全性向上報告書

事業者が中心となって、安全性を高めるための仕組みを検討し報告書にまとめて公表する

- 各事業者は、この報告書を遵守する。
- 報告書を元に、規制を含むステークホルダーと議論する
- 社会に向けて事業者の活動を発信する

### 例：日本版FLEXの一部

まずは、簡単なことから進めることが重要である  
一から考える必要はない

#### 可搬型代替低圧注水ポンプ(※)のアタッチメント開発

○ 可搬型代替低圧注水ポンプのフランジ（配管やホースとの結合部）は各社によって仕様が異なるためアタッチメントを開発。（他電力の可搬型設備が使用可能に。）

【※：可搬型代替低圧注水ポンプ】

・常設の代替低圧注水ポンプが使用できない際のバックアップとして、原子炉の冷却や原子炉格納容器内の温度・圧力を下げる機能を担う。



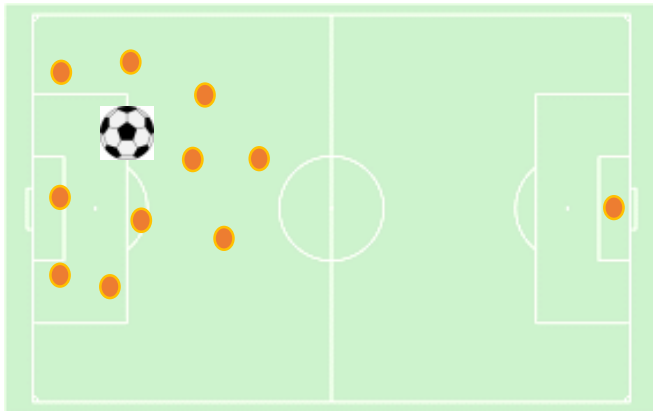
(自主的安全性向上・技術・人材ワーキンググループ(第20回) 2018/1/22 資料1より)

## ・リスクの観点から活動の再評価

従来実施してきた活動をRIDMの観点から再評価を行い、改善する

# RIDMは新しいことをやることではない 現状の活動に理論的裏づけを与えてアップグレードするもの

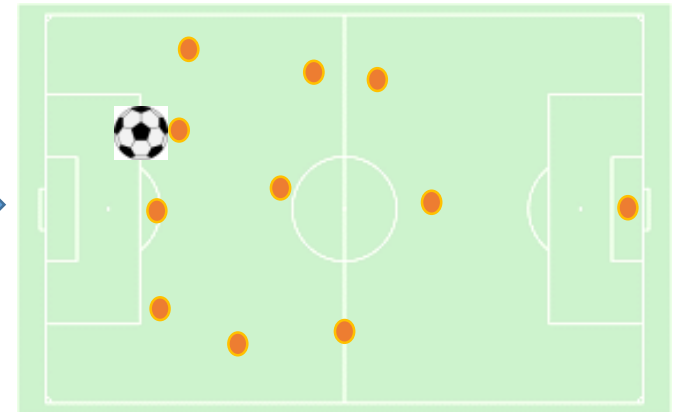
弱いサッカーチーム



優れたコーチ

サッカー理論  
実戦経験

強いサッカーチーム

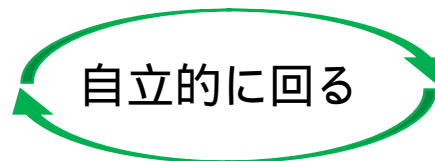


経営陣の意思決定  
現場のメンテナンス・運転



より安全なプラントへの  
理論的裏づけ

まず、過去の事例を精査し  
RIDMの視点で再評価



過去の事例から、RIDMが役に立つことを  
経営陣や現場が認識すること

現在の現場の活動を元に、改善を進めることが重要